

第7回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会
The 7th PDA Junior High School Parliamentary Debate National Competition

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2024年3月17日(日)

会場：Zoom (オンライン)

主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：大阪公立大学

後援：朝日新聞社、朝日中高生新聞、一般社団法人 日本英語交流連盟、
JSPS San Francisco Office

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団、
一般財団法人 三菱みらい育成財団

協賛：世界の第2言語学習者の英語運用能力を目的に開発された
TOEFL Primary(CEFR B1 前半迄測定可)、TOEFL Junior(CEFR B2 後半迄測定可)

【開催趣旨】

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。

(参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>)

【参加校】

- (青森県) 八戸聖ウルスラ学院中学校
- (岩手県) 岩手県立一関第一高等学校附属中学校
- (茨城県) 茨城県立太田一高等学校附属中学校
- (茨城県) 茨城県立勝田中等教育学校
- (茨城県) 東洋大学附属牛久中学校
- (栃木県) 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校
- (千葉県) 東邦大学付属東邦中学校
- (千葉県) 翔凜中学校
- (千葉県) 渋谷教育学園幕張中学校

(東京都) 筑波大学附属駒場中学校
(東京都) 東京都立小石川中等教育学校
(東京都) 東京都立武蔵高等学校附属中学校
(東京都) 東京都立三鷹中等教育学校
(東京都) 東京都立富士高等学校附属中学校
(東京都) 千代田区立九段中等教育学校
(東京都) 渋谷教育学園渋谷中学校
(東京都) 武蔵高等学校中学校
(東京都) 広尾学園中学校
(東京都) 品川女子学院中等部
(東京都) 獨協中学高等学校
(神奈川県) 浅野中学校
(神奈川県) 聖光学院中学校
(神奈川県) 栄光学園中学校
(神奈川県) 湘南白百合学園中学校
(長野県) 長野県諏訪清陵高校附属中学校
(愛知県) 東海中学校
(愛知県) 南山中学校女子部
(愛知県) 大成中学校
(兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校
(岡山県) 岡山県立岡山大安寺中等教育学校
(徳島県) 徳島県立城ノ内中等教育学校
(熊本県) 熊本県立八代中学校
(宮崎県) 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

欠席

(東京都) 東京都立大泉高等学校附属中学校
(愛媛県) 愛媛県立松山西中等教育学校

全 35 校

【タイムスケジュール】

09:30 受付
09:50 開会式
10:20 ラウンド 1
11:20 昼食交流会(11:30~12:00)
12:10 ラウンド 2

- 13:20 ラウンド 3
14:30 決勝進出チーム発表、決勝準備
14:35 キーノートレクチャー
14:50 決勝
15:20 表彰式、アンケート
15:40 終了

【ご挨拶】

第7回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会へのご参加ありがとうございます。
毎年参加校数が増えており、中学生が英語を使って即興で議論する取り組みへの関心が高まっていると感じます。

高等学校の新学習指導要領では、2022年度から英語科の新科目「論理・表現」が掲げられ、活動としてディベートが明記されています。本大会で取り扱うディベートは、授業の50分で完結する形式であり、中学生にとって近い将来役立つ内容です。英語で発信する力のほか、さまざまな論題について多様な視点から考える力を鍛える一助となることを願っています。キーノートレクチャーもお楽しみください。

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）代表理事
中川智皓（大阪公立大学工学研究科・准教授）
東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
理化学研究所 客員研究員
寝屋川市教育委員

【論題】

- Round 1 Japan should accelerate its investment in small rockets.
日本は小型ロケットへの投資を加速すべきである。
- Round 2 It is better to spend time on various experiences rather than studying for university entrance exams (traditional written exams).
大学入試（従来の筆記試験）に向けた受験勉強よりも、各種体験に時間を
使う方がよい。
- Round 3 For violent crimes, the names of offenders should be disclosed, regardless of age.
凶悪犯罪について、年齢に関わらず、犯罪者の氏名を公表すべきである。
- 決勝(キーノート) Limited medical care in times of disaster should prioritize the young over the elderly.
災害時の限られた医療は高齢者よりも若者を優先すべきである。

【キーノートスピーカー】

特定非営利活動法人（認定 NPO） ピースウィンズ・ジャパン（Peace Winds）

空飛ぶ捜索医療団“ARROWS” プロジェクトリーダー

稲葉 基高氏

【開会式】

第7回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会も、前大会に引き続き遠隔（オンライン）で実施することとなりました。開会式では、はじめに、中川代表理事より開会の挨拶として本大会の趣旨についてお話がありました。本大会で扱う英語ディベートは実際の授業時間内（50分）で完結する形式であり、中学生にとって英語力だけではなく、批判的思考力や論理的思考力を育むためにも役立つものであります。その後、PDAでのディベート推進活動の紹介がありました。PDAでは、コロナ以前から7年ほどかけて、各地域でのディベート交流大会、認定教育ジャッジ制度の確立などに取り組んでいます。つづいて、本大会参加の35校が紹介されました。各校で様々な特色ある挨拶を交わし盛り上がりました。POI（Point of Information: ディベート中の質疑応答）を全員で練習した時、メインルームには参加者たちの大きな「POI!」のかけ声がひびきわたり、生徒たちに笑顔も見られました。その後、ルール説明や注意事項、PDAスタッフよりジャッジへ向けてスコア送信についての注意事項、説明が行われました。



POIの練習

【ラウンド1】

開会式が終わると早速1ラウンド目のスタートです。ラウンド1の論題は“*Japan should accelerate its investment in small rockets. (日本は小型ロケットへの投資を加速すべきである。)*”でした。テクノロジーの開発や宇宙業界への投資の話など、難しい内容の話にも触れており、議論が白熱しました。初戦から積極的なPOIが行われ、ディベートが盛り上がりました。結果を待つ間に、相手チームと「どのような話をしていたか」や「〇〇と言っておけばよかった」など、自主的に振り返りを行っていました。



一致団結！（勝田）



ディベート中の様子（宮崎西）



スピーチの様子（渋谷教育学園渋谷中学校 VS 八戸聖ウルスラ学院中学校）

【昼食交流会】

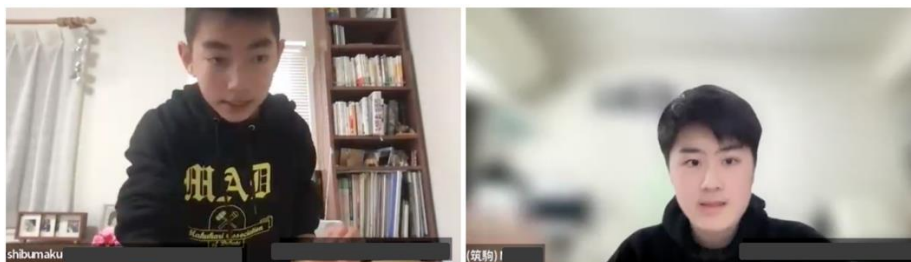
昼食タイムに交流会を行いました。オンライン開催ということもあり画面越しではありましたが、交流しながら昼食をとりました。ブレイクアウトルームに分かれて、ラウンド1でディベートした内容を話したり、お互いの学校生活の話、テストや部活動の話などで盛り上がり、学校や学年を超えて交流を行っていました。



昼食交流会 各ブレイクアウトルームの様子

【ラウンド2】

ラウンド2の論題は *“It is better to spend time on various experiences rather than studying for university entrance exams (traditional written exams). (大学入試 (従来の筆記試験) に向けた受験勉強よりも、各種体験に時間を使う方がよい)”* でした。主に Government (肯定側) からは「たくさんの経験が得られる」、Opposition (否定側) からは「基礎学力の定着」について議論が行われていました。スキルを得ることについては両側から話され、大学生になった時に起こりうることを議論中に何度も例として出すなど、自身の数年後をイメージしながらのディベートとなりました。



ディベートの様子 (渋谷教育学園幕張中学校 VS 筑波大学附属駒場中学校)



エアー握手 (神大附属・岡山大安寺)



エアー握手 (栄光・湘南白百合)



交流 (城ノ内・品川女子)



ジャッジコメントの様子 (勝田)

【株式会社ダンケゼア TOEFL Primary・Junior に関するご説明】

ラウンド2を終えると、今大会の協賛企業である株式会社ダンケゼアの教員チームリーダー中村先生による TOEFL Primary・Junior に関するレクチャーが行われました。中村先生は、「論理的に相手にわかりやすく伝える力は将来必ず求められる力です。それを伸ばそうと頑張っている姿に感銘を受けました。」と実際にラウンド1と2を観戦した感想を伝え、ご自身のご経験も交えながら TOEFL についてご説明いただきました。



株式会社ダンケゼア 教員チームリーダー 中村先生によるレクチャー

【ラウンド3】

3 ラウンド目の議題は、*“For violent crimes, the names of offenders should be disclosed, regardless of age. (凶悪犯罪について、年齢に関わらず、犯罪者の氏名を公表すべきである。)”* でした。Government (肯定側) からは主に「国民・市民の安全性や不安」、Opposition (否定側) からは「加害者の社会復帰」についてスピーチを行っていました。PMR・LORの両方で前述の2つの論が比較され、自分のチームの立論の方が正しい・重要だと説明しました。実際に身の回りで凶悪犯罪が起こった場合に自分たちならどう感じ、どう思うのかなどをスピーチ中に表現しました。



三鷹 VS 湘南白百合



八代 VS 渋幕



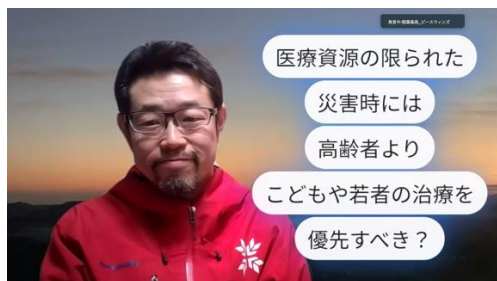
諏訪清陵 VS 一関第一



私立武蔵 VS 東邦

【キーノートレクチャー】

本大会のキーノートレクチャーでは特定非営利活動法人（認定 NPO）ピースウィンズ・ジャパン (Peace Winds) 空飛ぶ創作医療団“ARROWS”プロジェクトリーダーの稲葉基高氏を講師にお迎えしました。決勝戦の論題にもなっている「災害時の限られた医療は高齢者よりも若者を優先すべきなのか」と言うとても難しいテーマを考えていく上でも貴重な情報を現場での経験も含めながらお話ししていただきました。今年 1 月に起こった能登半島地震での救済の経験や、災害時では医療の需要が通常時に比べて非常に高くなる現状も教えていただきました。また、災害時に 1 人でも多くの人を救うために、限られた資源の中でそれらを最大限に活用して、傷病の緊急度や重症度を迅速に評価し治療の優先度を決定するトリアージも教えていただきました。とても論争的で難しい問題であり、災害国の日本では特に重要な今回のお話には、生徒たちからの質問が絶えませんでした。



稲葉氏によるキーノートレクチャー



質問の手がたくさん上がりました

【決勝ラウンド】

ついに決勝戦進出チームの発表です。予選ラウンドの結果、決勝には聖光学院中学校、九段中等教育学校が選出されました。論題は、***“Limited medical care in times of disaster should prioritize the young over the elderly. (災害時の限られた医療は高齢者よりも若者を優先すべきである。)”***でした。多くの観客が見守る中、白熱した議論が展開されました。命の優先順位という非常にセンシティブで難しい論題ではありましたが、積極的に POI も行われ、決勝戦に相応しいラウンドとなりました。



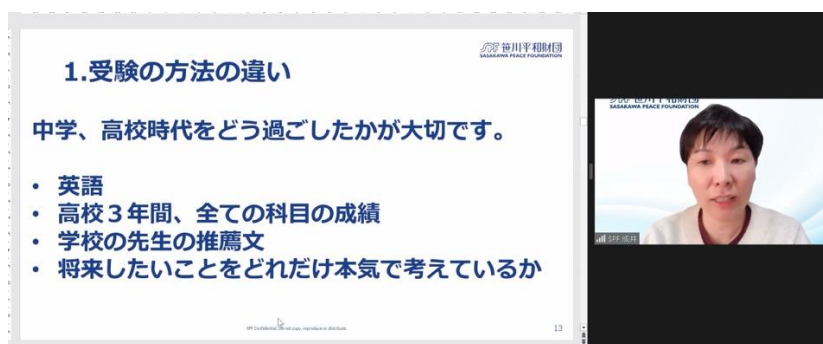
Government: 聖光学院中学校



Opposition: 千代田区立九段中等教育学校

【笹川平和財団 留学のご案内】

決勝ラウンド後、公益財団法人 笹川平和財団の留学スカラシップ紹介が行われました。申請方法やそのために必要なことなどを具体的にご説明いただき、ラウンド 2 で大学受験について議論した参加者は海外留学という選択肢に心を躍らせながら説明に聞き入っていました。



公益財団法人 笹川平和財団 留学スカラシップの紹介

【表彰式・閉会式】

表彰式では、ベストディベーター賞、ベスト POI 賞、チーム賞が発表され、決勝ラウンドの結果が発表されました。結果を見た生徒たちは喜びをかみしめ、チームメイトお互いに声をかけあう様子も見られました。活躍されたすべての生徒に賛辞を送りたいと思います。



チーム賞発表の様子（岩手県立一関第一高等学校附属中学校）



ベストディベーター賞 受賞者 集合写真



ベスト POI 賞 受賞者 集合写真

ベストディベーター賞やベスト POI 賞を受賞した生徒たちは、「初めての参加で緊張したが楽しく取り組むことができた。」「昨年もこの大会に参加したが個人賞は受賞しなかった。今年受賞することができてとても嬉しい。」「3 年連続参加した。高校生になっても頑張りたい。」など感想を述べました。

最後に、中川代表理事より「ディベートをすることでそのトピックについて深く考えることができます。自分だけでなく社会や他の人のために何ができるか、どうすればいいかを考え、優しさを持ってディベートで得た学びを活かしてください。」とメッセージが送られ、第7回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会は幕を閉じました。



第7回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会結果

〈チーム賞〉

優勝	聖光学院中学校（神奈川県）
準優勝	千代田区立九段中等教育学校（東京都）
3位	広尾学園中学校（東京都）
4位	浅野中学校（神奈川県）
5位	渋谷教育学園幕張中学校（千葉県）
6位	筑波大学附属駒場中学校（東京都）
7位	渋谷教育学園渋谷中学校（東京都）
8位	岩手県立一関第一高等学校附属中学校（岩手県）

〈個人賞〉（★は3回、他は2回）

ベストディベーター賞

_____	さん(浅野)★
_____	さん(三鷹)★
_____	さん(勝田)★
_____	さん(神大附属)
_____	さん(大成)
_____	さん(広尾)
_____	さん(都立武蔵)
_____	さん(翔凜)

ベスト POI 賞

_____	さん(獨協)★
_____	さん(渋幕)
_____	さん(神大附属)
_____	さん(大成)
_____	さん(南山)
_____	さん(東海)
_____	さん(諏訪清陵)
_____	さん(品川女子)
_____	さん(私立武蔵)
_____	さん(渋々)
_____	さん(九段)
_____	さん(小石川)
_____	さん(筑駒)
_____	さん(太田第一)

【アンケート（抜粋）】

1. 生徒からの感想

- ディベートを他校の方とするのが初めてで、いろいろな人のディベートの進め方を知ることができたので今後に生かしたいです。ジャッジの先生方からのアドバイスもとても分かりやすく、今後のディベートで気を付けていきたいと思いました。（宮崎西）
- ブレイクタイムなどで友好関係を築いたり、ジャッジさんが丁寧に説明していただいたりしたので分かりやすかったし楽しかったです。（富士）
- 前回の大会よりテーマが難しく、時事ネタが多かったように思いました。来年の大会に向けて日頃からニュースを見て、自分の意見を持てるようになりたいです。（大成）
- このような素晴らしい機会を与えてくださり、本当にありがとうございます。貴重な経験になりました！！！！！！（一関第一）
- 全国の学校と試合ができる機会はなかなかなくて良い経験となりました。去年よりは良いスピーチをすること、焦らず落ち着いてすることを目標に頑張りました。他校の生徒さんとの交流で刺激を受けたところも多くありこれからも頑張って練習を続けていきたいと思います！！（岡山大安寺）
- 自分の言いたいことを言えた時が楽しかった。（九段）
- 自分の英語力も高まり、論理的思考力も高まった。（宮崎西）
- 他校とのディベートによる交流はモチベーションにつながった。（私立武蔵）
- 自分と同年や年下の子がすごく上手でもっとたくさん練習しようと思った。（大成）
- 中学校最後だったので、ここで学んだことを高校生でも活かして行きたいなと思います。（湘南白百合）
- 今まで関わったことのない学校と関わって、いろんな経験を積むことができた。（湘南白百合）
- なかなか交流できない学校とのディベートが体験できて生徒共々、大変勉強になりました。（八代）

2. 教員・見学者からの感想

- 中学生の大会は非常に貴重で、多くの他校の生徒とかかわることができたこと、経験を積めたことが何よりです。ありがとうございました。
- ジャッジを2ラウンドやらせていただき、大変勉強になりました。今後も生徒と一緒に勉強していきたいと思います。
- 論題が最近のニュースと密接につながっていた。生徒たちの、見解が様々で聞きがいがありました。
- 論題が生徒たちの身近な経験に近かったり、キーノートレクチャーに繋がっていたりと、非常に考えさせられるものでした。
- 理屈抜きで、ディベートから得られる楽しさや学びの深さを実感できました。

- ディベートにひたむきに取り組む子どもたちに関われるのは、尊いことだと感じます。
- 他校の中学生が難しい論題にもひるまず、果敢に議論を進める姿を見て、いい刺激になりました。
- 中学生のレベルに本当に驚きました。高校生の中級以上のレベルではと思いました。論題は結構、中学生にとって難しかったと思いますが、私がジャッジした試合では、両チームとも見るべきポイントを外さずにディベートできていました。これからの伸びが楽しみです。

3. キーノートレクチャーについての感想

- 現地で乃経験がある人のお話を聞けてとても考えさせられるものがあった。(太田第一)
- 特に興味のある分野だったので勉強になりました。わかりやすくてとても参考になりました。ありがとうございました。(南山)
- 貴重な現場の意見や考え、実態などを知れてよかったです。(広尾)
- あまり日常生活では聞く機会の無い、災害時等の医療現場にいた人の考えを聞くことができた。(筑駒)
- 災害という緊急状況下で誰を救うべきなのか、実話をもとにとっても考えさせられた。その後の決勝ラウンドを聴くにあたって参考にもなった。(筑駒)
- 自分たちの知らなかった世界のお話(トリアージ含め)を知ることが出来てとても有意義でした。キーノートレクチャーがなければきっと知ることのなかった世界や話だと思うのでとても素晴らしかったです。(南山)
- 実際に先生が赴いた珠洲市での救出活動など、悲しいけれど知るべき事実を知る機会になり自然災害について知識が増えた。(湘南白百合)
- 生命の順序を決めるための葛藤があることに感動した。(諏訪清陵)
- とてもためになった。明日起こるかもしれぬ災害に、できる限りの対策をしたいと思います。(渋幕)
- 非常に示唆に富む、究極の選択、という debate にふさわしい内容でした。(教員)
- 非常に良かったです。これまでもかなり学びの多いレクチャーを提供いただき感謝していますが、今回が最高の学びでした。是非、高校生にも聞かせてやりたいと思いました。お願いします。(教員)
- とても興味深かったです。特に90代のせっかく助けた方が亡くなってしまった話しは考えさせられました。(スタッフ)

以上